

2019年度 丹のたね 事業報告

丹のたねは、丹波市笛路地区を中心に中山間地域の里山資源を有効活用し、里山の総合的な価値を高める活動を創出・持続していくことで里山や中山間の課題解決に貢献することを目的としています。

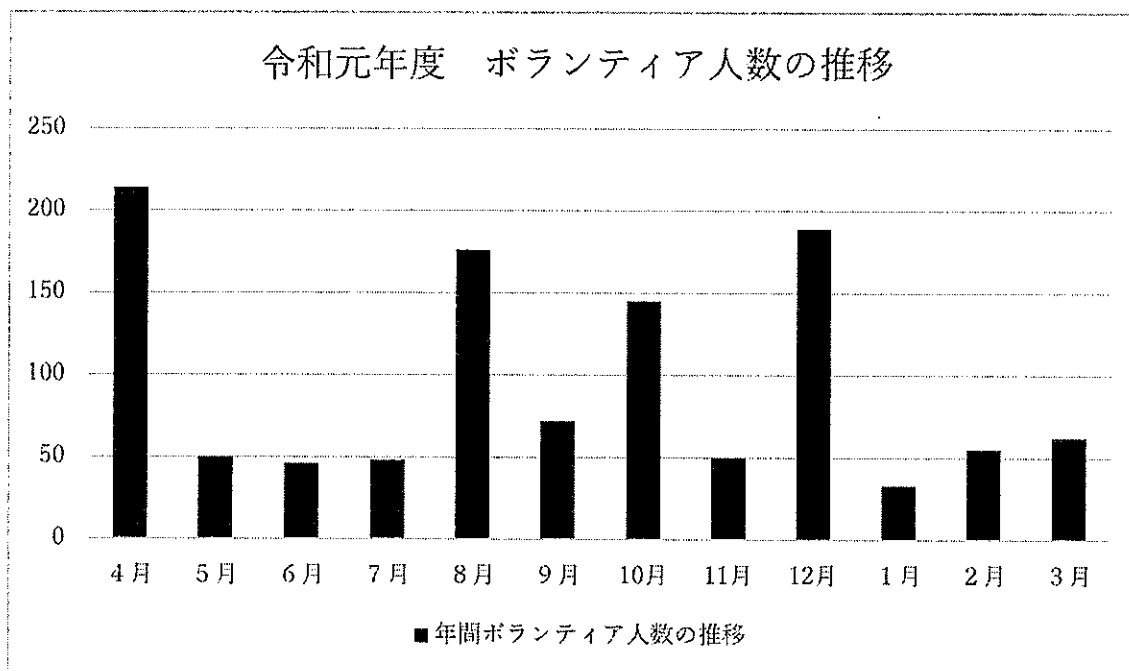
今年度も多岐に渡り、様々なボランティア活動を継続しましたが、なかでも里山ようちえんふえっこの活動が幼児クラスを開設したことにより常時行っている事業となり、今までイベントなどの単発事業から日常活動へと移行したことは大きな成果だったと思います。立ち上げた事業は、もちろん多くの課題と向き合いながら進めていますが、時間をかけてゆっくりと育てていくことで地域に合ったものを形にしていきたい。

今年度の事業

- ・里山ようちえん ふえっこ ⇒幼児クラス開設、親子クラス継続
- ・里山研修 ⇒青少年育成のための農村研修
- ・ナチュラルキャンプ 2019 ⇒障害児・者の自然体験キャンプ
- ・里山企画 里山フレンチ・里山珈琲 ⇒里山の地域活性を目的とした食育事業

各月ボランティア活動人数

月ごとの事業や開催内容によって、ボランティアの参加人数は増減するが年々関係人口を増やし、里山活性のコミュニティを広げていっている。



それぞれの事業報告

【里山ようちえんふえっこ】 ⇒別紙①

【里山研修】

今年の内容は、山登り、食育(鶏の解体、夕食作り)、キャンプファイヤー、農業体験、村民との交流などを行いました。この土地でしかできない自然体験とこの場だからこそ感じ、話せる環境で参加者同士が「自分を知ってもらう、

相手を知る、自分と他者の関係を知る」という目標の基、コンテンツを実施しました。1日目最初の山登りでは、初対面ということで緊張もある中コミュニケーションをとりながら登頂という一つの目標に向かって取り組むことで距離を縮めていきました。午後からは食肉調理のプロであるシェフをお招きし、鶏の解体から食肉になるプロセスを学びました。参加者全員が鶏を見ること、ましては触ることも初めてではありましたが、解体の工程も躊躇することなく、命を頂くことの有り難みを感じ一生懸命作業していました。また夕食作りでは自分たちで考え、協力しながらその場にある食材だけで調理をしました。薪を割り火を起こすところから羽釜でご飯を炊き、全ての調理を野外で行いました。食べること、作ることの楽しさを知り、毎日当たり前であった食を見直すきっかけになったのではないかと思います。

そして、2日目朝より村の方々と農作業を通じ交流しました。作物の水やりや収穫など村の日常を体験し朝食をご一緒することで、都会との生活の違いやこの土地の良さ、そしてここで暮らす若者がいるという価値観の変容が感じとれました。午後からは2日間の振り返りを行いました。参加者からでた意見として、当たり前であったことは誰かのおかげで成り立っているということ、命を頂くという実感が持てたこと、他者と関わることと自己開示の難しさなどが挙げられました。この研修では人間が生きていく根本である日々感謝すること、人と関わることの大切さに気付けたのではないかと思います。

事業成果について。

第一にコミュニケーション能力の向上が挙げられます。人も環境も初体験の中で、仲間と協力し、相手を思いやる行動や言動が若者の成長に大きな影響を与えます。日常の生活では人に無関心である現在、仕事をする上でも自分の意思を伝え相手の意見を聞き尊重することはとても重要だと考えます。

食育においては命を頂くことの有り難みや食への関心、理解が生まれました。また、その場にある食材だけで調理を行うことで思考能力や適応能力の向上が見受けられました。

村民との交流を通じ、他者理解や多角的な視野から物事を捉えることができたのではないかと感じました。

畑の作物研修



人参畑での収穫体験



じゃがいも畑での管理作業



丸太の活用体験



【ナチュラルキャンプ 2019】

昨年度に比べて、コンテンツに大幅な内容は変更ありませんが、ひとつひとつのプログラムをより皆が楽しめるよう創意工夫をしました。障がいを持った方が自然の中でチャレンジして遊ぶことを目的としつつ、地域交流として、今年も2日目の夏祭りに重きをおきました。

プログラムの1日目午後の前半は、水鉄砲大会や源流遊び、五右衛門風呂を行いました。昨年からの改善点は竹林を整備し動線を確認したことです。今までは源流に降りる場所が一カ所しかなく、混雑し思う存分遊べない時がありました。整備したことにより源流の両側から降りることができ、また日陰の休憩所ができるので熱中症対策にも繋がりました。日中はとても暑く熱中症を懸念しておりましたが、源流の水で頭や首を濡らせる場所があり、寒くなったら五右衛門風呂に入ったりとボランティアと相談しながら個々で体調管理が出来ていたのも良かったと思います。

また、昨年同様五右衛門風呂の火おこしには地元のボランティアの方が、火の番には遠方から来られたボランティアのお子様が手伝ってくださり、世代を越えて交流を持てることが印象的でした。

午後の後半野菜の収穫体験では、収穫するのが楽しいと時間を忘れて作業に没頭していました。畑が傍にあり、自然に触れる体験こそこの場所でナチュラルキャンプを行う価値だと思います。

飯ごう炊飯では、年々子どもたちの料理に対する興味や取り組む姿勢が変わり、子どもたちの中で出来る子は出来ない子に教えたり黙々と作業したりとそれぞれの積極性が垣間見えました。

キャンプファイヤーを囲みながらのレクリエーション・花火では、従来は講師をお招きしゲームや歌を楽しんでいましたが、今年はキャンプの責任者がプログラムを考えることで、より一体感が生まれ和やかな場になりました。レクリエーションや花火中もボランティアさんと子どもたちがよく会話していたのが良かったと思います。

2日目午前前半は里山散策をしながら宝さがしをしました。今回は事前にイベント責任者が道を下見して楽しめるポイントを予め把握し、通過点ではお菓子を準備するという工夫をしました。例年子どもたちは朝早いということもあり、歩くのがしんどかったり楽しむことが難しい子もいましたが、責任者とボランティアさんが協力することで最初から場を盛り上げて、下見でチェックしたポイントでは木をくぐったり川を通ったりと、楽しめるポイントを少しプラスことで歩く距離が増えたり里山での滞在時間が延びたりと変化が生まれました。

そして、今回のメインイベントである2日目の午前後半からは丹のたね祭りを開催し、有志で露店を5店舗、楽器演奏や歌、ダンスなど4組が集まりました。今回は地元の方の出店が多く、その方の繋がりで来場者は市内の方が多かったと思います。

また、野外開催のため昨年の反省を生かし熱中症対策として会場に塩を加えた麦茶や冷却グッズを常備し、冷房のある休憩室も準備しておりましたが例年にない暑さから数名の体調不良の子たちがでました。全てに対応することはなかなか厳しいですが、祭りの時間の短縮や屋内での開催も今後は視野に入れていかなければと感じました。

全体的には、ボランティアと障がい児の数がちょうどよく、イベント責任者とボランティアが協力してプログラムを運営していたことでコミュニケーション量が以前にも増して多かったことや、フリーボランティアや医療スタッフ、食事スタッフも確保されていたので役割分担がはっきりとしていたことでキャンプ自体の流れがスムーズになりました。

・実施場所

丹波市の笛路地区の田畑、里山、清流になります。

・実施期間

8月3日(土)～4日(日)

・参加者等

障がい児枠 18名

ボランティア（一泊二日） 15名

フリーボランティア（地元）10名

親子枠 2組（4名）

祭り参加者（一般枠） 48名前後

オクラの収穫体験



祭り中の里山ライブ



キャンプファイヤー



五右衛門風呂体験



集合写真



収穫体験



【里山企画 2019】

里山フレンチ

丹波にゆかりのある料理人をお呼びして、丹波の食について交流を深める里山フレンチ。会員制で今年も盛大に行われました。本年も3日間の開催として、各日15名ずつのサロンという形での運営です。毎日丹波や丹波の食・食材にかかわるゲストが集まり、交流を深め、丹波の食材を今後広げていく繋がりをもてました。この会を機に丹波に足を運ばれる方も多くなり、また農家さんの取引量も増加したとの声も聞こえます。

里山珈琲

ジャパン珈琲フェスティバルさんとのコラボレーションによって開催された里山珈琲。里山を代表する里山をフィールドとした地域活性イベントとなるよう準備を進めました。当日は、全国からこだわりの珈琲店舗が15件ほど集まり、地域の方々が来場者として来られるイベントとなりました。

意外だったのは、市外からのお客様よりも市内からの来場者が多かったこと。全体としては課題の多い部分もありますが、地域活性の観点から考えると今後継続していく価値のあるものだと考えています。

会員

- ・正会員 10名
- ・賛助会員 150名

会議に関する事項

- ・総会 2019年5月20日
- ・事務局会議 2019年5月1日 内容：総会に向けて。認可外保育施設申請について。
2019年8月10日 内容：事業の経過報告、認可外保育にあたっての運営体制について
2019年9月20日 内容：保育料無償化に伴う申請手続き、および来年度の保育料について
2020年1月15日 内容：次年度の保育料について
2020年3月25日 内容：コロナ対策に伴う休業について。

2019年度 里山ようちえん ふえっこ 事業報告

2019年4月に預かりの幼児クラスを立ち上げました。

月曜日から木曜日の9:00~15:00 3歳児から5歳児の子ども9名

子どもたちが自然の中で五感を使いながらやりたいことを見つけたり、お散歩や、自然に合わせた遊びを取り入れたりしながら活動していきました。

4年目となる親子クラスは、毎週金曜日に開催。

主に0歳児~2歳児の子どもを対象に13組でスタートしました。

親子で一緒に自然の中で楽しむ場、保護者同士の触れ合いの場として、お母さん達がやりたいことを取り入れるなどして活動していきました。

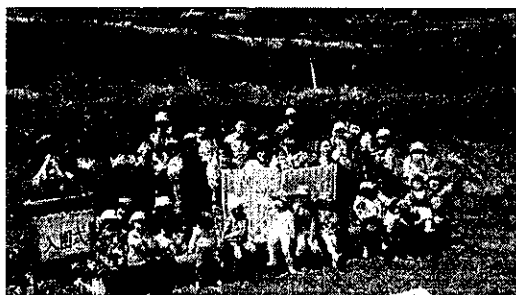
○春

[入園式、種まき、よもぎ団子作り、野草料理、こいのぼり製作、染め物、泥んこあそび、田植え、など]

毎日登園して、少しずつ環境に慣れることができるよう活動していきました。拠点となる広場周辺をお散歩して草花や生き物に触れ、野菜の種まきから水やりなどをしていきました。また野草を採って焼いたり天ぷらにしたりして頂き、季節の食材を知る機会となりました。染め物の活動では、自然物を使ってハンカチやTシャツなどを自分達で染める経験をしました。

地域の方の田んぼに伺い、泥んこ遊びや、田植えの経験もさせていただくことが出来ました。

講師の方をお招きして、幼児クラス・親子クラスの保護者を対象に、幼児期の関わり方や野外保育の重要性などの講話をしていただく機会を設けました。



○夏

[川あそび、色水や泡あそび、野菜収穫、梅干しの手仕事、七夕製作、ボディーペインティング、遠足(常勝寺)など]

日々の川遊びでは、全身で水の感触を楽しんだり、カニや魚などを見つけて観察したりすることが出来、お花を使っての色水あそびや泡あそびなど、夏ならではの遊びを取り入れることが出来ました。



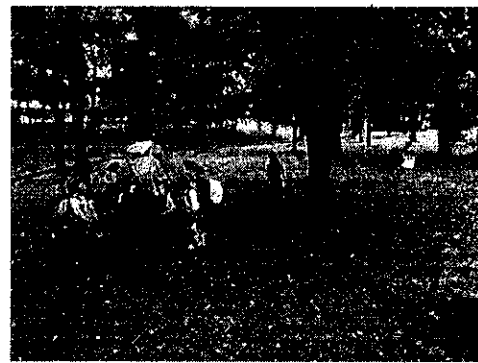
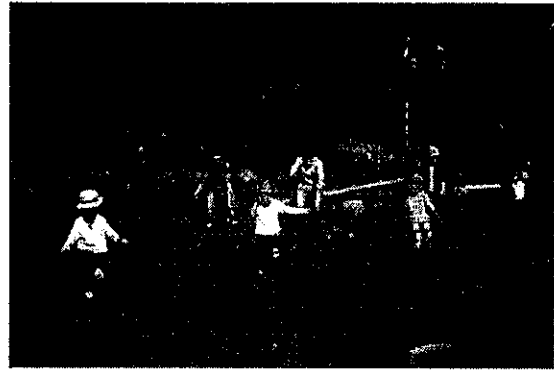
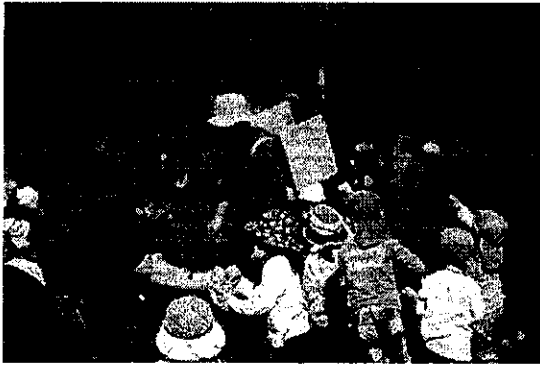
○秋

[運動遊び、お月見団子作り、遠足(大路こどもの森、年輪の里)、稲刈り、イモ掘りなど]
親子で身体を動かして楽しむ目的で、幼児クラス・親子クラス合同で運動あそびデーを開催しました。やりたい競技やルールなどを子どもたちと一緒に考え、玉入れなど全て子どもたちの手作りで準備をしていきました。保護者考案の競技では幼児クラスの保護者が主体となって準備をしてもらいました。

お散歩に行つて見つけた秋の自然物を使っての製作や楽器作りなどを楽しむことが出来ました。

5月に田植えをさせてもらった田んぼで稲刈りをさせていただきました。また機械での稲刈りの様子を1日見学させてもらうなどし、12月のおもちつきでの餅米を購入して、おもちにして頂く過程に繋げることが出来ました。

次年度園児募集のため、4日間の体験日(ふえっこまいにち)を設けました。



○冬

[たき火、焼きイモ、冬野菜収穫、クリスマス会、おもちつき、遠足(黒井城跡、日本のへそ公園)、味噌作り、節分、ひなまつり]

毎日たき火をすることで、火の着け方や扱い方を体験の積み重ねで学ぶことが出来ました。そして、その日に収穫した野菜をたき火で焼いて頂くなどしました。

クリスマス会では保護者が主体となって企画し、親子でピザ作りなどをしました。

親子でおもちつきを楽しみ、出来たお餅を日頃お世話になっている地域の方に配るなどして交流することも出来ました。

3月に行った黒井城跡での遠足では、全員が頂上まで登ることができ、1年間の積み重ねと、心身の成長を感じることができました。





○年間を通して

- ・毎日のお散歩や散策を通して五感を使っての気づきを大切にしていきました。
また月に1回、野遊びの講師を招いて一緒に散歩や活動をしていただきました。
- ・誕生会、月1回の絵本の日、を設けました。
- ・月1回のお料理の日では、お釜でご飯を炊き、収穫したり竹岡農園から頂いたりした野菜を使ってお味噌汁を作りました。繰り返し経験することで、包丁の扱いや調理の手順などが身についていきました。



○保護者会

2ヶ月に1回、土曜日に保護者会を行いました。
畑や広場の整備をしたり、子どもたちも一緒にかき氷作りや味噌作りなどの活動を行い、日頃の保育での子どもたちの様子をお伝えしたり、家庭での様子を共有したりする時間を設けました。

○まとめ

・幼児クラス

毎日同じ場所に来て、日々変わり続ける自然の変化に気付き、楽しみながら関わることで、様々な刺激を得ることができたと思います。野草やお花、虫などの生き物のことを知り、次の日も見たい、行きたい、どうなっているか確かめたい、など継続性をもって遊び、感じることができました。自然の中では子どもたち自身が興味をもって自ら関わっていけるので、図鑑で調べてみたいという気持ちや、もっと触ってみたい、など意欲的な姿が見られるようになりました。

年間を通して笛路村をお散歩することで、地域の方から声を掛けていただくことも増え、子どもたちも親しみを持ち関わりを楽しむ姿が見られるようになりました。

また少人数制で、関係性が深まり、それぞれの友達のことをよく知ることが出来ました。自分のことも伝えて友達のことにも認めていける関係作りが継続できるようにしていきたいと思えます。

・親子クラス

3年目、4年目と継続して来られるお母さんも増え、お母さん達が主体となって進める活動を多く取り入れることが出来ました。お母さん自身が楽しんでリラックスして参加することで、子どもたちもやりたいと思って参加し、子ども同士の関わりも見られるなどしてのびのびと過ごすことが出来ました。

○今後の課題

幼児クラスでは、保護者理解を深めるための活動を取り入れるなどして、一緒に子どもたちの育ちを見守る関係性作りをしていく必要がある。

親子散歩やボランティアなどで保育に参加してもらう機会を増やしたり、一緒に環境整備をしてもらったり、茶話会などを設けたりして共通理解ができるような関わりを増やしていきたいと思えます。

法人名： 特定非営利活動法人 丹のたね

活動計算書

平成31年4月1日から 令和2年3月31日まで

| 科 目 | 金 額 | | |
|--------------|-----------|-----------|-------------|
| I 経常収益 | | | |
| 1. 受取会費 | 4,354,750 | | |
| 2. 受取寄付金 | | 4,354,750 | |
| 3. 受取助成金等 | | 0 | |
| 4. 事業収益 | 275,000 | | |
| 5. その他収益 | 429,000 | | |
| | | 704,000 | |
| | 30,000 | | |
| | | 30,000 | |
| 経常収益計 | | | 5,088,750 |
| II 経常費用 | | | |
| 1. 事業費 | | | |
| (1) 人件費 | | | |
| 給料手当 | 2,250,000 | | |
| 法定福利費 | 10,800 | | |
| | | | |
| 人件費計 | 2,260,800 | | |
| (2) その他経費 | | | |
| 食 材 費 | 357,277 | | |
| 謝 礼 金 | 638,870 | | |
| 業務委託費 | 675,315 | | |
| そ の 他 | 2,627,745 | | |
| その他経費計 | 4,299,207 | | |
| 事業費計 | 6,560,007 | | |
| 2. 管理費 | | | |
| (1) 人件費 | | | |
| | | | |
| 人件費計 | 0 | | |
| (2) その他経費 | | | |
| | | | |
| その他経費計 | 0 | | |
| 管理費計 | | 0 | |
| 経常費用計 | | | 6,560,007 |
| 当期経常増減額 | | | △ 1,471,257 |
| III 経常外収益 | | | |
| 1. 過年度損益修正益 | | | |
| 雑収入 | 196,242 | 196,242 | |
| 経常外収益計 | | | 196,242 |
| III 経常外費用 | | | |
| 1. 過年度損益修正損 | | | |
| 経常外費用計 | | 0 | |
| 税引前当期正味財産増減額 | | | 59,023 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | | △ 1,334,038 |
| 当期正味財産増減額 | | | 0 |
| 前期繰越正味財産額 | | | △ 1,334,038 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 340,568 |
| 次期繰越正味財産額 | | | △ 993,470 |

法人名： 特定非営利活動法人 丹のたね

貸借対照表

令和 2 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

| 科 目 | 金 額 | | |
|-------------------|-----------|-------------|-----------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 1,644,150 | | |
| 積立金 | 6,000 | | |
| 貸付金 | 1,000,000 | | |
| 流動資産合計 | | 2,650,150 | |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1)有形固定資産 | | | |
| 付属設備 | 1,350,000 | | |
| 有形固定資産計 | 1,350,000 | | |
| (2)無形固定資産 | | | |
| 無形固定資産計 | 0 | | |
| (3)投資その他の資産 | | | |
| 投資その他の資産計 | 0 | | |
| 固定資産合計 | | 1,350,000 | |
| 資産合計 | | | 4,000,150 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 預り金 | 8,640 | | |
| 未払金 | 93,980 | | |
| 流動負債合計 | | 102,620 | |
| 2. 固定負債 | | | |
| 長期借入金 | 4,891,000 | | |
| 固定負債合計 | | 4,891,000 | |
| 負債合計 | | | 4,993,620 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 前期繰越正味財産 | | 340,568 | |
| 当期正味財産増減額 | | △ 1,334,038 | |
| 正味財産合計 | | | △ 993,470 |
| 負債及び正味財産合計 | | | 4,000,150 |

法人名： 特定非営利活動法人 丹のたね

財産目録

令和 2 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

| 科 目・摘 要 | 金 額 | |
|----------------|-----------|-----------|
| I 資産の部 | | |
| 1. 流動資産 | | |
| 現金預金 | | |
| 手許現金 | 270,556 | |
| 普通預金 | 1,373,594 | |
| 積立金 | 6,000 | |
| 短期貸付金 | 1,000,000 | |
| 流動資産合計 | | 2,650,150 |
| 2. 固定資産 | | |
| (1)有形固定資産 | | |
| 附属設備 | 1,350,000 | |
| 有形固定資産計 | 1,350,000 | |
| (2)無形固定資産 | | |
| 無形固定資産計 | 0 | |
| (3)投資その他の資産 | | |
| 投資その他の資産計 | 0 | |
| 固定資産合計 | | 1,350,000 |
| 資産合計 | | 4,000,150 |
| II 負債の部 | | |
| 1. 流動負債 | | |
| 預り金 | 8,640 | |
| 未払金 | 93,980 | |
| 流動負債合計 | | 102,620 |
| 2. 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 4,891,000 | |
| 固定負債合計 | | 4,891,000 |
| 負債合計 | | 4,993,620 |
| 正味財産 | | △ 993,470 |